

# 令和5年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	○自立と社会参加に向けた一貫性のある教育課程を編成し、学習指導を行う。	① チームによる子どもの「わかった。できた」をより多く引き出すための効果的で持続可能な仕組みによる授業を構築する。  ② 生活年齢に応じた段階的な育てたい力を学校全体で共有する。	①-1 研究推進班を中心に、子どもの実態に応じた具体の手だてや実践を各学部内及び各学部間で共有を図るとともに、実践を積み重ね、深化を図る。 ①-2 年次研（中堅研）の研究テーマと連動した授業改善を行う。  ② 小中高各学部における育てたい力を明確にする。	①-1 子どもの「わかった。できた」について、単元後等、振り返りの場を設定し、授業改善ができたか。  ①-2 課題に対する研究の取り組みと成果を共有できたか。  ② 各学部の育てたい力を共有できたか。
2	児童・生徒 指導・支援	○個々の障害特性を理解し、生活年齢や発達段階に合った指導・支援を行う。	① 集団生活において、子どもが状況に応じて自由で安心、自信をもって適切に行動ができるようにすること等、社会に出る力の育成を図る。  ② 子どもの学校生活における指導支援の方法や環境設定の工夫に際し、専門職等の参画の整理も含め組織的に行う。	① 学部学年チーム等の多角的な視点によって、他者との関わりに係る課題の共有を図り、その改善の方策が子どもの実体験として積み重なるよう系統的に設定する。  ② 子どもの見立てや個別教育計画作成時、または、ケース会議開催時や指導支援の場面等において、校内外の資源を適切に活用し、多面的に課題を捉え、支援に活かす。	① 集団生活における個々の課題の共有を図るとともに、子どもの目的的な活動に効果的につなげることができたか。  ② 専門職等の校内外の資源との連携を効率的に進められたか。また、専門職等の視点や意見も参考に支援・指導に活かされたか。
3	進路指導・支援	○卒業後の生活をイメージし、小学部段階から系統性のある進路指導・支援を行う。	① 一人ひとりの特性に応じて支援を理解する力を醸成し、主体的に判断・選択する力、そして行動する力の育成を図る。 ② 生活年齢と発達年齢とのバランスを図りながら、将来必要となる力の獲得に向け、現段階で育成する内容を保護者と協働して取り組む。	① 係活動や作業班等の学習活動において、子どもが主体的に自己選択、自己決定ができる機会や他者との関わり場面を計画的に設定する  ② 保護者や教職員に対して社会生活に向けた各年齢段階における必要なスキルに係る情報提供を行うことで、家庭の役割、学校の役割を踏まえた指導支援を行う。	① 選択場面等の設定がある学習活動が実践できたか。また、目的に対し、子どもは適切に行動ができたか。  ② 保護者、教職員への情報提供は的確であったか。また、保護者と協力して取り組めたか。
4	地域等との協働	○共生社会の実現に向け、地域資源の活用、本校の資源の活用等を通し、双方に有益な取り組みを行う。	① 本校の活動を地域に発信・浸透させるとともに、子どもたちの社会性や人間性を育みながら、地域との協働をより充実させる。  ② センターの機能の向上・充実を図ることで、校内及び地域の学校等の専門性を高め、持続可能な支援体制を構築する。	①-1 学校だより等を用いて本校の活動の状況等を地域へ発信する。 ①-2 地域の各機関が主催するイベント等に参加するなど、地域との効果的な繋がりを構築する。  ②-1 子どもの指導や支援に係る相談や情報提供等、校内外の支援機能の充実を図る研修会を企画運営する。 ②-2 地域の学校等のニーズを把握し、校内体制の充実を図ることができるよう働きかけをする。	①-1 情報発信の内容や回数等が的確であったか。  ①-2 地域と協働した子どもたちの学習活動が促進されたか。  ②-1 研修会の内容、回数は適切であったか。  ②-2 地域の学校等への支援体制の向上や充実が図れたか。
5	学校管理 学校運営	○安全・安心な、事故・不祥事のない学校であるよう管理・運営を行う。	① お互いに認め合う風土を醸成し、全職員の心理的安全性を構築するとともに、チームで業務を遂行することで、事故・不祥事の未然防止を図る。  ② 防災教育の充実を図るとともに、組織として子どもを守る環境を整備する。	①-1 同僚を慮る実践的な技能等の獲得のための研修会を行う。  ①-2 業務の進行状況をチームで把握することや、チームで業務を遂行することに係る改善点の洗い出しや対応の共有を図る。  ②-1 学校安全計画の課題の共有を図るとともに、子ども一人ひとりに即した実践的な防災教育の充実を図る。  ②-2 自然災害等の発災を想定した訓練の充実や危険回避のための環境整備に係るチェック表の策定等を行う。 できるようにする。	①-1 研修会の内容と回数は適切であったか。  ①-2 チームでの取り組みが業務の平準化や心理的安全性につながったか。  ②-1 子どもが自分で自分を守る行動がとるための環境設定や学習活動が実践できたか。  ②-2 具体を想定した訓練の充実やチェック表が機能したか。